

「未来を創造し、社会に貢献する人材の育成」

平成30年度 柳津町立会津柳津学園中学校

学校だより

平成30年7月13日(金)発行 第 15 号 発行責任者:高橋 弘悦

もうビリでもギャルでもない ビリギャル講演会

いきなりのことばの嵐! 90分の持ち時間をフルに使って、すべてを伝えたいという気持ちが伝わって、すぐに引き込まれました。

7日、本校の開校を記念して、柳津町文化講演会が開催されました。講師は、あの「ビリギャル」で有名な小林さやかさんご本人。

講演の内容は、偏差値をあげて難関大学に行くべきだ、と説くものではない。自分でワクワクする目標を見つけ、強い意思を持って努力する大切さを伝えていました。



「ビリギャルって受験の話だと思われているけれど、家族の話であり、人の成長の話なんです。子どもたちには、どういう大人になりたいかを想像して、逆算したらどう生きるべきか考えてほしい。そのためには、もしかしたら大学に行く必要はないかもしれない」

偏差値よりも経験値

印象に残ったのは、「偏差値よりも経験値」ということばです。ワクワクするものを見つけたくて、いろいろな友だちと関わり合ったのも経験。「イケメンのいる慶應義塾大学に行きたい」というワクワクする目標を見つけて、偏差値を40上げる努力をやりきったのも経験。形こそ違え、似たような経験を経て入学してきた、いわゆる変わり者の大学の同期の人たちとのふれあいも経験…。

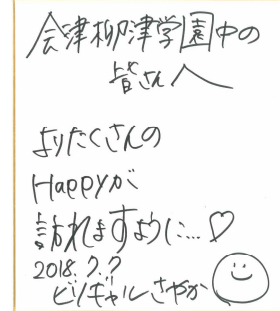
AIの時代…。人間がかつて担ってきた仕事をAIが代行していくことが予想される今、私たちが身につけるべき能力は何か…。小林さんは言います。「AIは膨大な量を処理することはできても、新しいことを創り出すことはできません。0を1にするのは人間しかできません。自分の頭で考えて、意思を持って決めること、これが大事だと思っています。」

自分の為すべきことを自分の頭で考え、決めて、実行する…。そのためにいろいろなことに手をだし、試して全力で経験する。小林さんが一貫して訴えたかったことは、このことなのだろうと思います。

不可能を可能にする秘訣

では、「絶対ムリ」を克服して、不可能を可能にした秘訣は何なのか…。小林さんは、次のようなことを上げてくれました。

- 1 ワクワクする目標を設定する
- 2 根拠のない自信を持つ
- 3 具体的な計画を立てる
- 4 目標や夢を公言する
- 5 憎しみをプラスの力に変える



詳細については、講演でも触れられましたし、図書室の「学年ビリの…」にも書かれているので省略しますが、この中でも「1」のワクワクする目標を設定することが一番重要だろうなと思って聴いていました。

多くの人（特に私のような田舎者は）夢や願いを持っていたとしても、心のどこかで、「それはたぶんムリ…。田舎者なんだから自分はたぶんこのあたり」と、自分で自分にリミットをかけてしまうようなことが多い気がします。中には、夢や希望すら持たず、流されるままに日々を過ごしてしまうようなこともあります。

だからこそ、しっかりと自分に向き合い、自分が「ワクワク、ドキドキ」することって何だろう？「こうなったら楽しいな、すごいな」と思うことってなんだろうと考えることはすごく大事だと思います。

このことは、本校の今年の重点目標「あこがれの自分、あこがれの学校を求めて」に通じるものです。この講演を聴いた生徒の皆さんには、ぜひ自分が「ワクワクする目標」を見つけ、大きく成長して欲しいと思いました。

平成30年7月11日
福島民友新聞より

